

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 中間評価

学校名	唐津市立鏡山小学校
-----	-----------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1	前年度 評価結果の概要 ・前年度は、各専門部の機能を活かし部会運営を充実させたことで、学校の課題や達成目標を常に職員と共有し、全体で目標達成の取組に繋げることができたことが成果として挙げられる。本年度も部会や運営委員会を核に、全職員のベクトルを合わせ、P D C Aサイクルを意識した学校運営に全職員で取り組んでいく。 ・本年度は、業務効率化の更なる推進と不登校支援体制の充実を図っていきたい。
---	---

2 学校教育目標	自ら考え行動し いきいきと学ぶ児童の育成
----------	----------------------

3 本年度の重点目標	【知】 ① 学習規律を整える。 ② 個別最適な学びと協働的な学びを通して、主体的にいきいきと学ぶ児童を育成する。 ③ 家庭学習の工夫。 【徳】 ① 児童・保護者・職員の心の教育を充実するために、校内体制を整える。 ② 特別支援教育の充実を図る。 【体】 ① 保護者と共に食育を推進する。 ② 望ましい生活習慣を身に付けるために、家庭での生活習慣に対する意識を高める。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者				
(1)共通評価項目												
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価				学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
●学力の向上	○資質・能力を育成する授業についての共通理解・共通実践	○「学力向上対策評価シート」の【共通実践】に基づき、授業改善に努めることができていますか」の質問に対し、肯定的な回答をした教師90%以上				・			学習指導部 研究推進部			
	○家庭学習習慣の定着	○「わが子が家庭学習の目安(10分×学年＋10分)を達成できるように、サポートすることができていますか」の質問に対し、肯定的な回答をした保護者70%以上										
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友達を大切にして良い関係を築き、楽しく学校生活を送ることができていますか」の項目で肯定的な回答をした児童85%以上				・			道徳教育推進教師 人権・同和教育担当 各学年主任			
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校は楽しいですか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童85%以上								○認知したいじめの3か月以内での解消率100%を目指す	・	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●◎「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対し、肯定的に回答した児童85%以上								●◎「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童90%以上		・
	○◎児童が自分や友達の良さを認めることができる態度を育てる教育活動	○◎「自分や友達の良さをみつけようとしていますか」の質問に対し、肯定的に回答した児童85%以上								○◎「各団体体験活動では、児童に活動の見通しを持たせ、学びの振り返りを行う活動を仕組み、自己の変容に気付かせていく。また、教師は活動の過程において児童に1日に1回以上肯定的な声かけをするように意識する。」		
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ○睡眠時間を十分に確保し、生活リズムを整えている児童の育成	●「健康に良い食事をしていますか」の質問に対し、肯定的に回答した児童90%以上				・			健康指導部 学校栄養職員 養護教諭			
	○運動習慣の定着化	○「授業以外で、運動やスポーツに進んで取り組んでいますか」の質問に対して肯定的に回答した児童80%以上								・委員会活動などで工夫してスポーツチャレンジへの取組を推奨する。 ・運動できる場を確保するため、朝の時間の運動場の開放を行う。	・	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上				・			企画会			
	○教職員の連携促進	○「学年や部会など仕事が平準化できるように主体的に連携しようとしていますか」の質問に対し、肯定的な回答をした職員80%以上								・業務の負担に偏りがないか、企画会、運営委員会で情報共有し、対応する。	・	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育への理解推進・支援体制の確立	○「職員同士で密に情報交換を行い、具体的な手立てをもって支援することができたか」の質問に対して肯定的な回答をした職員90%以上。 ○「特別支援教育に関する通信を読んでいますか」の質問に対し、肯定的な回答をした保護者80%以上。				・			特別支援部			
		・特別支援担当者が「年度当初に児童に向けて特別支援教育への理解啓発の話を。学級担任や生活支援員と密に情報交換を行い、児童の状況を適切につかみ、具体的な手立てをもって支援する。」 ・保護者向けの通信を特別支援部より年5回程度発行し理解を図る。										
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者		
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価				
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・			・		・				
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・			・		・				
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育												
5 総合評価・次年度への展望												